



東小学校便り

木 洩 れ 陽 α

令和5年2月7日 No.11

2月4日に立春を迎え、暦の上では春となりました。早春賦の一節に“春は名のみ風の寒さや…”というフレーズがありますが、まだまだ寒い日もあろうかと思えます。油断せず、日々、過ごしていきたいと思えます。

そう言えば、1月末に十年に一度の寒波が日本列島を包み込みました。延岡もかなり冷え込み、手元の温度計は氷点下3度を示していました。中でも最も冷え込んだ日の朝、1年生教室のベランダでは、子ども達の歓声が響きました。前日に“氷のオブジェ”を作る準備をしていたのです。カチカチに凍った作品を手に、今の季節ならではの楽しみを味わっていました。



さて、今年度取り組んできた詩の暗唱も、今回で最後となりました。坂村真民さんの“二度とない人生だから”という詩（一部）です。低学年の皆さんには難しいかもしれませんが、ぜひ、挑戦してほしいなと思えます。

二度とない人生だから 坂村真民

二度とない人生だから 一輪の花にも無限の愛を注いでゆこう
一羽の鳥の声にも無心の耳をかたむけてゆこう
二度とない人生だから 一匹のコオロギでも踏み殺さないように心してゆこう
どんなにか喜ぶことだろう
二度とない人生だから 一編でも多く便りをしよう
返事は必ず書くことにしよう
二度とない人生だから まず一番身近な者達にできるだけのことをしよう
貧しいけれど心豊かに接してゆこう
二度とない人生だから 露草の露にもめぐり会いの不思議を思い
足をとどめて見つめてゆこう
二度とない人生だから 昇る日 沈む日 丸い月 欠けていく月
四季それぞれの星々の光にふれて
我が心を洗い清めてゆこう